

台風18号に対する農作物の事前・事後対策

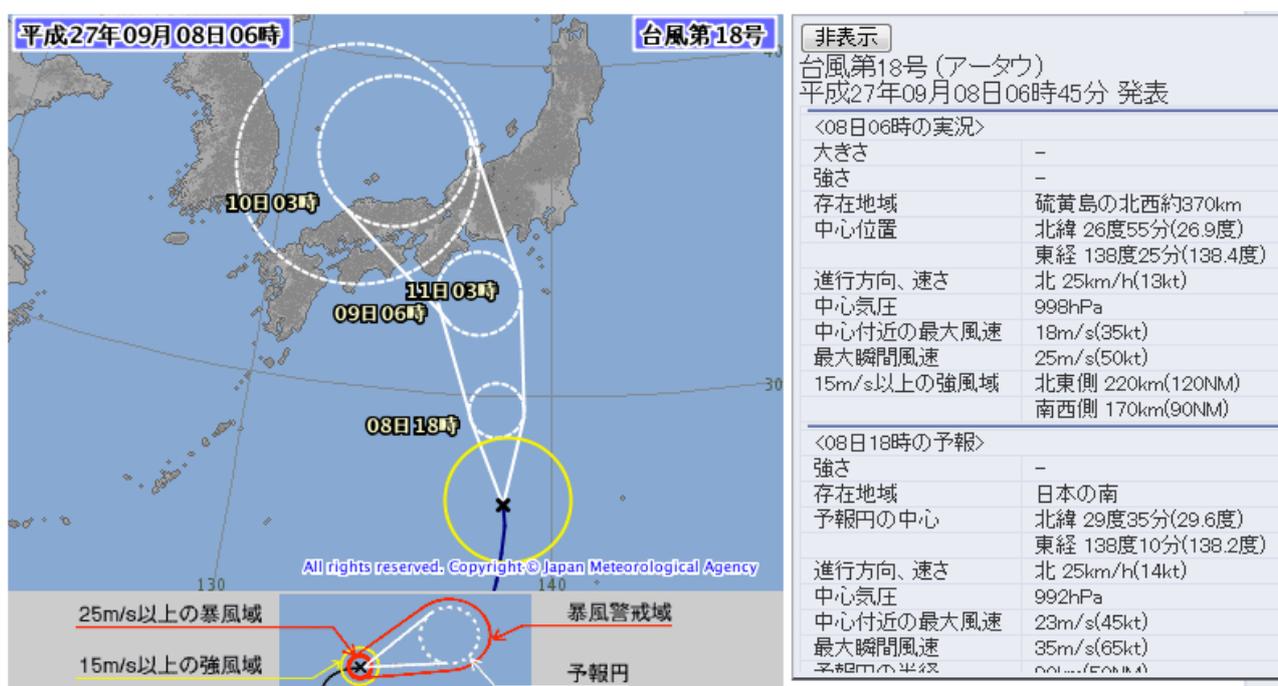
平成27年9月8日
農業技術課
総合農業技術センター農業技術普及部
果樹試験場果樹技術普及部
畜産試験場畜産技術普及部

台風第18号と前線の影響で、西日本と東日本の太平洋側を中心に、9日にかけて激しい雨が降り、局地的に非常に激しい雨が降る恐れがあります。

関東地方の山沿いや甲信地方南部を中心に総雨量が多くなり、9日6時までの24時間に予想される雨量は、多い所で、

関東地方南部 150ミリ、関東地方北部 80ミリ、甲信地方南部 150ミリ
となっています、農作物の管理に十分注意してください。

(台風第18号に関する関東甲信地方気象情報 第1号 平成27年9月8日06時15分 気象庁予報部発表)



○共通事項

- ①台風が接近すると、強風等により屋外での作業が困難になるため、気象情報に注意し、早めに対策を実施する。
- ②圃場やハウス、倉庫などの周辺で強風によって飛ばされる恐れのあるものは、あらかじめ片付けておく。また、圃場に設置している作業小屋等についても必要な補修や暴風対策を行う。
- ③収穫期を迎えた農作物については、集出荷施設等の指示に従って収穫を行うが、未熟なものは収穫しない。

○果 樹

[事前対策]

<共通事項>

- ①冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路を点検、補修、整備する。特に収穫前のブドウは、大雨による裂果を防ぐため、排水対策を徹底する。
- ②傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。
- ③収穫適期の果実は収穫を行う。なお、未熟果の収穫は行わない。

<立木果樹>

- ①倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱等により固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では針金を点検し補修する。
- ②カキなど収穫前のものは、枝のゆれによる落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱等により固定する。
- ③リンゴでは支柱の点検と枝つりの見直しや補強を行う。

<棚栽培果樹>

- ①強風による棚の揺れや倒壊を防ぐため、つか杭を設置する。
- ②収穫中や収穫前のブドウなどでは、棚の周囲に防風ネットを設置する。

<施設果樹>

- ①棚やパイプハウスを点検し、補修や補強を行う。特に、ビニールがまくられないようにマイカー線等の点検を徹底する。
- ②収穫中の甲斐路やピオーネなどの雨除けハウスでは、風が強くなってきたら、ビニールを巻き上げて、施設の倒壊を防ぐ。
- ③オウトウの雨よけハウスは、天張りビニールや防鳥ネットの収納に努める。収納できない場合は、巻き取りパイプをしっかりとハウスに固定し破損を防ぐ。

[事後対策]

- ①園地が滞水している場合は、速やかに排水対策を図る。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。
- ②樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。
- ③太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに剪除し、ゆ合剤を塗布する。
- ④強風により外れたブドウの枝や新梢は再誘引し、外れてしまったカサや袋はかけ直しを行う。
- ⑤落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。
- ⑥裂果や果実腐敗病が発生している場合には、速やかに除去する。特にブドウの裂果や晩腐病発生果には注意する。
- ⑦強風や雨により、枝葉や果実等への損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、薬剤の追加散布等については指導機関の指示に従う。
- ⑧施設栽培では、棚やパイプハウス、ビニール、各種の装置、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。

○野菜

【事前対策】

- ①ほ場周辺の排水路を点検、補修、整備し、排水路からの逆流防止のため、ゴミ等を取り除く。また、ほ場内には、排水溝を設ける。
- ②風の強く当たる地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置する。
- ③ハウスなどの支柱や基礎などを補強するとともに、ビニールがまくられないようにマイカ線等を点検し施設の被害防止に努める。
- ④強風による飛しょう物で、ハウスなどの施設が損傷を受けないように、周辺の清掃や防風ネットを設置する。
- ⑤ナス、トマト、キュウリは、倒伏を防ぐため、支柱の補強、固定、誘引等を行う。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ②ハクサイ、ダイコン等の葉根菜類では、葉の損傷や泥のはね上がりにより、病害の発生が懸念されるため、天候の回復を待って予防散布を徹底する。
- ③ナス、キュウリ、トマト等は、キズ果を早めに除去し樹の負担の軽減を図るとともに、倒伏したものは速やかに引き起こす。この際、根を切らないように注意する。
- ④イチゴは、汚水の浸水やはね上がりにより、病害の発生が懸念されるので天候の回復を待って予防散布を徹底する。
- ⑤台風通過後は、晴天により温度上昇が予想されるのでハウス内の換気を速やかに行う。

○花き

【事前対策】

- ①野菜の事前対策①～④に準拠して、被害防止に努める。
- ②露地切り花は、フラワーネットや支柱などの点検を行い倒伏防止に努める。
- ③鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレーを利用するなど日頃より台風等による倒伏防止に努める。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ②露地切り花では茎葉の損傷により、病害の発生が懸念されるため、天候の回復を待って防除基準にしたがって予防散布を徹底する。
- ③台風通過後は、晴天により温度上昇が予想されるのでハウス内の換気を速やかに行う。

○水 稲

【事前対策】

- ①浸水・冠水害を防止するため、水路や水田の水口・水尻の点検を行う。
- ②収穫期をむかえた水田では、倒伏、穂発芽などによる品質の低下を防ぐため、台風の接近前に速やかに刈り取り作業を行う。

【事後対策】

- ①浸水や冠水した水田では、早急に排水に努める。
- ②収穫適期をむかえ倒伏した稲は、穂発芽防止のためできるだけ早く刈り取る。

○大 豆

【事前対策】

- ①ほ場周囲に排水溝を設置する。
- ②滞水しやすい部分には、あらかじめ溝切りをする。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、ほ場周辺に溝を切るなどして、速やかな排水を図る。

○畜 産

【事前対策】

- ①畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため、必要に応じて補修を行う。
- ②畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどして排水に努める。また、畜舎への浸水等により家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。
- ③停電や断水等への対応を確認しておく。

【事後対策】

①飼料作物

冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。

②家畜

- ・天候が回復した後、直ちに畜産施設内及びその周辺の排水を行う。また、土砂が流入した場合には、再度の土砂流入等の事故に流入等の事故に十分注意しつつ、土砂を除去する。
- ・養分の低下した飼料作物や品質の低下した濃厚飼料の給与をする場合にあつては、栄養価、嗜好性等にも配慮し、家畜の生産性が低下することのないよう注意する。